

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成19年6月21日(2007.6.21)

【公開番号】特開2005-264038(P2005-264038A)

【公開日】平成17年9月29日(2005.9.29)

【年通号数】公開・登録公報2005-038

【出願番号】特願2004-80328(P2004-80328)

【国際特許分類】

**C 0 8 L 101/00 (2006.01)**

**C 0 8 G 77/06 (2006.01)**

**C 0 8 G 79/00 (2006.01)**

**C 0 8 K 3/22 (2006.01)**

**G 0 2 F 1/1333 (2006.01)**

【F I】

C 0 8 L 101/00

C 0 8 G 77/06

C 0 8 G 79/00

C 0 8 K 3/22

G 0 2 F 1/1333 5 0 0

【手続補正書】

【提出日】平成19年5月1日(2007.5.1)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

アミド系溶媒、尿素系溶媒、スルホキシド系溶媒、アミン系溶媒およびリン酸系溶媒からなる群から選ばれる少なくとも一種を有機溶媒の全質量に対して50質量%以上含有する有機溶媒に、該有機溶媒の全質量に対して5～30質量%の有機ポリマーを溶解した状態で、金属アルコキシドおよび/または金属錯体系化合物のゾルゲル反応を行う工程を有することを特徴とする有機無機複合体の製造方法。

【請求項2】

前記有機溶媒として、水素結合受容性パラメータ(値)が0.6～1.0の有機溶媒を用いる請求項1に記載の有機無機複合体の製造方法。

【請求項3】

前記有機ポリマーが、アミド系溶媒、尿素系溶媒、スルホキシド系溶媒、アミン系溶媒およびリン酸系溶媒からなる群から選ばれる少なくとも一種を有機溶媒の全質量に対して50質量%以上含有する有機溶媒に、該有機溶媒の全質量に対して5質量%以上溶解することを特徴とする、請求項1または2に記載の有機無機複合体の製造方法。

【請求項4】

前記有機ポリマーとして、ポリアミド樹脂、ポリアミドイミド樹脂、可溶性ポリイミド樹脂、ポリエーテルイミド樹脂、ポリアリレート樹脂、ポリウレタン樹脂、ポリエーテルエーテルケトン樹脂、ポリカーボネート樹脂、フルオレン環変性ポリカーボネート樹脂、脂環変性ポリカーボネート樹脂、ポリスルホン樹脂、ポリエーテルスルホン樹脂、セルロースアシレート樹脂、脂環式ポリオレフィン樹脂、シクロオレフィンコポリマー、メタクリル樹脂、メタクリル酸-マレイン酸共重合体、ポリスチレンおよび透明フッ素樹脂からな

る群から選ばれる少なくとも一種を用いる請求項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載の有機無機複合体の製造方法。

【請求項 5】

請求項 1 ~ 4 のいずれか一項に記載の製造方法により製造される有機無機複合体。

【請求項 6】

ポリアミド樹脂、ポリアミドイミド樹脂、可溶性ポリイミド樹脂、ポリエーテルイミド樹脂、ポリアリレート樹脂、ポリウレタン樹脂、ポリエーテルエーテルケトン樹脂、ポリカーボネート樹脂、フルオレン環変性ポリカーボネート樹脂、脂環変性ポリカーボネート樹脂、ポリスルホン樹脂、ポリエーテルスルホン樹脂、セルロースアシレート樹脂、脂環式ポリオレフィン樹脂、シクロオレフィンコポリマー、メタクリル樹脂、メタクリル酸 - マレイン酸共重合体、ポリスチレンおよび透明フッ素樹脂からなる群から選ばれる少なくとも一種の有機ポリマーと、

金属アルコキシド系化合物および/または金属錯体系化合物より派生した金属酸化物とから構成され、IPN 様構造を形成してなる有機無機複合体。

【請求項 7】

請求項 6 に記載の有機無機複合体からなる光学フィルム。

【請求項 8】

厚さ 100  $\mu\text{m}$  のフィルムの波長 550 nm の光線透過率が 50 % 以上である請求項 6 に記載の光学フィルム。